

① 若者や女性、ジビエハンター等新たな捕獲の担い手の取組事例

鳥獣捕獲を通じて都市と農村をつなぐ女性ハンター

事例対象地：京都府京都市上京区

団体：NPO法人 いのちの里京都村

H P : kyotomura.jp/

キーワード：

女性、ジビエハンター

子ども達への普及啓発

1. 概要

- 林 利栄子 氏（NPO法人いのちの里京都村 事務局長）
 - ・ 過疎高齢化などの問題を抱える農山村と都市をつなぎ双方の利益に寄与することを目的とする「NPO法人いのちの里京都村」に入社。
 - ・ 個人事業者として市内に住みながら「NPO法人いのちの里京都村」の事務局長、猟師、獣肉処理場職員の3つの仕事をこなし農山村で都市と農村の橋渡し役として活躍。
 - ・ 平成27年から京都市内で「べにそん会」を主宰し、ジビエの普及にも尽力。
 - ・ 自身を、人に伝えるのが苦手な人が多い、地域の狩猟者の「代弁者・通訳者」と考え、ジビエハンターとして狩猟への理解やジビエの普及に取り組む。

**2. 取組の経緯**

イベントでシカ肉料理を販売していた際、子どもに「鹿を食べるのはかわいそう」と言われ、シカ肉を売る立場であるなら、「現状を知っていないと自信を持って売れない」と考えた。野生動物が田畑を荒らし、農山村の人たちが困っていることは知っていたが、狩猟体験を通じて「狩猟」の必要性を感じた。それをきっかけに猟師となり、当事者として語るようになった。

3. 取組のポイント

- 『NPO法人 いのちの里京都村事務局長』として、農山村が持つ資源と都市部の技術を繋ぐコーディネーター業務を行う
 - ➡ 集落と集落、集落と都市、企業、行政などとの協働による農村ビジネスを手がける。
- 『猟師』『獣肉処理場職員』として、冬期に狩猟を行い有害駆除にも参加
 - ➡ 血抜きなどの衛生処理を適切に行える技術をもつ「ジビエハンター」を目指すと同時に動物に敬意を持ち、命を無駄にしない猟師でありたいと考えている。
- 市内でシカ肉などのジビエを料理し食べる会『べにそん会』を開催しジビエの普及を行う。
 - ➡ 誰にでも共通する「食べる」ことから興味を引き出す。
- 子ども向けワークショップなどを行い、里山や獣害について興味をもって学んでもらう。
 - ➡ 「食といのち」について考える場を設ける。

